

わたしには個性派の映画俳優や芸人の友人知人が多くいる。

俳優の勝野洋氏もその一人である。勝野氏は伊万里出身で森永製菓の創始者、森永太一郎を演じてくれた。森永太一郎を主人公にした舞台「天使が微笑んだ男」を書くにあたって、森永太一郎役は勝野洋しかいないと決めていた。風貌が太一郎に似ているというわけではない。太一郎よりも太一郎らしい風貌といえはいいか。

勝野洋は映画やテレビ「太陽にほえろ」で知っていた。九州の風貌である。熊本だそうだが、始めはマネジャーを交えて飲んだ。だが、すぐに2人で飲むようになった。飲み始めは勝野洋氏の行きつけの神宮前の居酒屋から始まる。それから、梯子

焼き物を見にも行った。先代の源右衛門が亡くなった次の日である。ぐい呑みを買ったのを覚えていいる。近頃、お互いに忙しくて飲む機会が遠のいた。年寄りになったせいもある。わざわざ会うのが面倒臭いのである。中津江村を舞台にした「蜂の

友人知人と梯子酒

子梯子で下北沢や三軒茶屋まで移動して飲むのである。日本酒の徳利がどの店にも数十本は並んだ。奥様のキャッシー中島さんはちよこつと挨拶に顔を見せ、すぐにいなくなる。粋な旅公演では松浦市や伊万里市でもよく飲んだ。有田まで

やはりこの人らしく後悔が顔に滲む役であった。いま飲めば、お互いに報告しあうことがいっぱいあるのかもしれない。芸人のポール牧氏もわたしの演劇に出演してくれたことがある。この人とも意気投合してよく飲んだ。旅先から「兄弟先生」

とあってよく電話をくれた。この人とも「会おう会おう」といながら、とうとう会わずじまいであった。ポール牧氏の芸能生活40周年を記念したパーティーにも招待された。驚いた。わたしの席は上座で金田正一氏や若乃花・貴乃花兄弟と同席であった。いたずら好きのポール牧氏らしい。司会は徳光和夫氏である。壇上上げられて、ポール牧氏は「演劇界の一方の雄です」とわたしを紹介してくれた。恥ずかしく、嬉しかった。ポール牧氏はわたしが照れて喜ぶ顔が見たかったのである。

ポール牧氏が「お侠」で演じた通称「名なしの伝兵衛」という易者の役は実はお侠が探す男であった。狂言回しが犯人なのである。劇作術のルール違反といえばルール違反である。「お侠」はいま読んでもぞくぞくする。昭和25年の筑豊遠賀川が舞台である。「お侠」も再演した。若い女優の「お侠」が見たい。ぜひ老人勝野洋氏には出演してもらいたいものである。